

苗場山麓ジオパーク周辺水域における希少淡水魚類相調査報告

2015年9月2日

近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻

宮西 萌

「魚沼地方のシナイモツゴ生息地」として日本重要湿地500にも指定されている、苗場山麓ジオパークおよび松之山地区周辺に点在するため池群を対象に、魚類相調査を実施した。特に、絶滅危惧種シナイモツゴ（環境省版レッドリスト2013では絶滅危惧IA）の生息が見込まれるため、本種の分布と生息実態調査を重点的に行なった。その結果、調査地点10ヵ所のうち6ヵ所で本種の生息を確認し、この地域の生物多様性の保全価値を再確認することができた。一方で、シナイモツゴの存在を脅かす国外外来種のオオクチバス、国内外来種のモツゴの侵入も明らかとなった。今後、その動向を見すえていく必要があるため、継続調査は不可欠と思われる。なお、本調査の詳細については、別途報告の予定である。

今回の調査において以下の方々にお世話になった。謝して報告に替えたい。

苗場山麓ジオパーク振興協議会事務局

津南町税務町民課 課長

近畿大学農学部環境管理学科 准教授

佐藤信之

村山郁夫

佐藤一善

澤畠拓夫

（敬称略）

参加者

近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻博士前期課程 2年

近畿大学大学院農学研究科 教授

近畿大学農学部環境管理学科 4年

宮西 萌

細谷和海

森下來美

新潟県十日町市松之山 周辺地域調査記録

2015年07月13日

十日町市観音寺

採集地点	モントリで採集	目 視	環境景観	周りの植物	鳴き声など	聞き取り
St.1 お堂前 池	水生ヒル(1尾) ゲンゴロウ類(1頭)	アマガエル(2匹) アカガエル? (多数) トノサマガエル(多数)	石? 素掘り?	針葉樹林内(スギ) 闊葉植物(低木) 浮き草(コウホネ・ミツガシラ) 水草		ヒルはヒトの血を吸わない種類? (スジがないヒルは吸い付かない) シナイモツゴは消滅したかもしれない
St.2 水田周辺 ため池	シナイモツゴ(数尾)		向かい側は水田 底質も水田と共通	浮き草 ヒシ ガマ?のような植物		タナゴ(シナイモツゴの方言)は少なくなってきた。 ※真のタナゴ類も"タナゴ"と呼んでいるようだ。

十日町市湯山団地

採集地点	タモ網で採集	目 視	環境景観	周りの植物	鳴き声など	聞き取り
St.3~St.4 St.4は 下流	シナイモツゴ(多数) ドジョウ(多数) St.4のみ:ヨシノボリ稚魚 St.4のみ:マルタニシ St.4のみ:イシガハ死蔵 St.4のみ:ツチガエル幼生	アマガエル 最上池でカワセミ 下流池でマルタニシ	水田の隣 底質も水田と共通	オオキンケイギク キク科の野生化種 数種 (白い大型花・オオハベゴソウ) 61cm以内のイネ科 ヒシ(種と植物体) 最上池は近くに森 下流はクズも存在	アカショウビン ウグイス	シナイモツゴは鰻やイワナのエサ 苦いから人が食べる習慣はない。 St.4 向かいの池は新たな池のため シナイモツゴ不在 冬季の積雪は深い。 池は少し深いのでサギ類は来ない。

- ・湯山団地は近辺で水田有り。
- ・小学校の近くのため池ではメダカを放流している。
- ・そのメダカは在来メダカではないという。
- ・ホトケドジョウの生息域もある。
- ・周辺地域では過去にドジョウを養殖していた。
- ・昔ながらの在来のドジョウは細長い。

(キク科外来園芸種は在来植物の花がない時のためにわざわざ植えられ、大切にされていた。
ウシガエルは過去に導入されたが定着しなかった。ツチガエルは寒地では幼体で越冬するためウシガエルに酷似する。
タルマガエル・トウキョウダルマは信濃川周辺のみしか生息せず、松之山には生息しない。(澤島先生私信))

方言

- ・トロツケ=トログアイ・イシガイ類
- ・タナゴ=恐らく特定の種ではなくコイ・フナ・イワナではない雑魚を指す?
- ・トロツチヨ=ヨシノボリのこと?

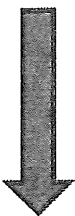
ジオパーク苗場山周辺 地域調査記録

2015年07月14日

採集地点	モジロジで採集	目 視	環境景観	周りの植物	鳴き声など	聞き取り
A1 コガエリ 駒返集落地内 水田用水池	シナイモジロ (9尾) トジョウ (36尾)	サシバ (2羽)	コムで周りを護岸 底質は軟泥	さまざまな雑草 針葉樹林が近いが ある程度日が当たる	サシバ	流域にホトケドジョウ生息情報 個体数は激減
A2 笹ヶ岳 神山遺跡上流 水田転換養理池	シナイモジロ (約50尾) ※シナイモジロはA1より 太短めな印象(2年魚?)	コイ コイ稚魚 (※コイの養殖池)	葉廻り	植物は少ない 池中にスレシ		周辺域にマススジダゴロウ出現 シナイモジロが黒コイの餌(構取り) 農道の反対側の池で、段丘崖からの地下水を溜めた池に シナイモジロは不在。定着しない
A3 ミナモト 米原集落水田 旧用水池	シナイモジロ (約30尾) ナガナナ (2尾) トウヨシノボリ (2尾) アヲナハヤ (1尾) ツチガエル (1尾) トジョウ (特有斑紋1尾)	アヲガエル トウキョウダルマガエル ヨシノボリ稚魚 (多数)		オギ・ウキウサあり。 広場は昔ながらの 田園雑草多数 (レンゲソウやギンギン)	近所でアヒルを代用した アヒガモ農法が行われていた。 クサガキを水路で確認。	S60年代に拡張し、後は30度しか抜いていない。 トノサマガエルもいるらしい 集落のミニ公園として管理されている。S60年代の周辺 基礎整備で拡張、このとき他の消滅地の生物を移入。 その後は自家産の産卵を放流したのみ。
A4 シリ 反里口集落水田 用水池	イモリ1匹		まるで湖のよう 深そう	針葉樹・温帯雑種生 背が高めのオギなど 様々な植物がある。	カウ類の鳴き声 ウグイス トラツグミ?	フナがいるらしい。 カワセミ飛来地
B1 シラカバ 植原集落後方 穴井平集落水田用水池	モジロ (約40尾) アヲナハヤ (5尾) ナガナナ (3尾)	アオサギ多数 池内にメダカ色の魚複数	岸をコンクリ舗装された池	オギ・低木・針葉樹 植生なし 箇所も。		来る途中の赤沢のため池は過去に ブラツクハズが発見されている。
B2 ササ 中子ため池	オイカワ (1尾) モジロ (5尾) ※このみ、たて網採集	カルガモ アオサギ	大きな池・湖のよう 冬季間は水位を半分以下に落とす	オギ・低木・ 針葉樹・シダ類 草が刈られて すぐだった様子である。		上流にサクラを植林。 過去に“ブラツクハズ移植計画”あり。(中止) 養蚕段階でオイカワが移植されている。 ナマズがよく釣れる。 下流の水量調整池にコウチハズが今年発見されている。

- ・すべてのポイントの周辺で農業が行われている。
- ・中津川がちょうどシナイモジロとモジロの2種の分岐点となっている。
- ・シナイモジロがあまりにも普通種であるため、注目されていない。
- ・モジロはおそらくコイの養殖のため、戦前から移植された可能性。
- ・シナイモジロは小サイズのものもあるため、繁殖はしつかり行われている。

- ・ナガナナが残っている、シナイモジロ・モジロとも共存?
- ・シナイモジロ当歳魚はサイズ差はばらつきがない→雪が降るため一斉に短期間に繁殖?
- ・近畿大学奈良キャンパスの土と違い、赤土である。
- ・トジョウが2種いる可能性がある。



自然環境が農業とバランスが取れ、維持がされている。
シナイモジロの重要性や異なる2種が混在していることを啓発し、
モジロの侵入をこれ以上広げないように気をつけることが望まれる。